

令和7年度採用 高等学校 美術

教科（科目）	受験番号
美術	

- (1) 下の絵画作品 A ～ C を，描かれた年代の古い順に左から順に並べたものと，それぞれに使われている遠近法の組合せとして最も適切なものを，次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は11。

A	B	C
著作権保護の観点により、掲載いたしません。		
モーリス・ユトリロ 作	カスパー・ダーヴィト・フリードリッヒ 作	ジョヴァンニ・アントニオ・カナル 作

- ① 年代順 A→B→C
A 空気遠近法 B 線遠近法（一点透視） C 線遠近法（二点透視）
- ② 年代順 B→C→A
A 線遠近法（一点透視） B 空気遠近法 C 線遠近法（二点透視）
- ③ 年代順 C→B→A
A 線遠近法（二点透視） B 空気遠近法 C 線遠近法（一点透視）
- ④ 年代順 C→A→B
A 線遠近法（一点透視） B 線遠近法（二点透視） C 空気遠近法
- ⑤ 年代順 C→B→A
A 線遠近法（一点透視） B 空気遠近法 C 線遠近法（二点透視）

- (2) 下の文章は、油彩画の溶き油について説明したものである。文中の空欄（ ア ）～（ エ ）に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 1 2。

油彩画で用いる溶き油には、空気中に気化してしまう粘り気のない（ ア ）油と、空気中の酸素を吸収して固まる（ イ ）油がある。（ ア ）油には（ ウ ）があり、（ イ ）油には（ エ ）などがある。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① ア 乾性 | イ 揮発 |
| ウ リンシード油やペトロール油 | エ テレピン油やポピー油 |
| ② ア 乾性 | イ 揮発 |
| ウ テレピン油やポピー油 | エ リンシード油やペトロール油 |
| ③ ア 揮発 | イ 乾性 |
| ウ テレピン油やペトロール油 | エ リンシード油やポピー油 |
| ④ ア 揮発 | イ 乾性 |
| ウ リンシード油やペトロール油 | エ テレピン油やポピー油 |
| ⑤ ア 揮発 | イ 乾性 |
| ウ テレピン油やポピー油 | エ リンシード油やペトロール油 |

- (3) 下の文章は、16 世紀末から 18 世紀前半のヨーロッパにおける芸術様式について説明したものである。文中の空欄（ ア ）～（ エ ）に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 13。

（ ア ）は、16 世紀末から 18 世紀前半にヨーロッパ各地で展開した芸術様式であり、強い色彩、際立った明暗など誇張や劇的效果が特徴的である。

イタリアのカラヴァッジョ、（ イ ）のレンブラント・ファン・レインやヨハネス・フェルメール、（ ウ ）の宮廷画家ディエゴ・ベラスケス、（ エ ）のピーテル・パウル・ルーベンスらが知られている。

- ① ア バロック イ フランドル ウ オランダ エ スペイン
- ② ア バロック イ オランダ ウ スペイン エ フランドル
- ③ ア バロック イ スペイン ウ フランドル エ オランダ
- ④ ア ロココ イ オランダ ウ スペイン エ フランドル
- ⑤ ア ロココ イ フランドル ウ スペイン エ オランダ

- (4) 下の絵画作品の芸術様式，作者の出身国，発表した年代の組合せとして最も適切なものを，次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は14。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

<芸術様式>

- A 抽象主義
- B 表現主義
- C 抽象表現主義

<作者の出身国>

- a アメリカ
- b フランス
- c イタリア

<発表した年代>

- ア 1910 年代
- イ 1930 年代
- ウ 1950 年代

- ① A－b－ア ② C－a－ウ ③ B－c－イ ④ A－a－イ
- ⑤ C－b－ウ

- (5) 下の3枚の絵を描いた画家が参加した芸術運動(様式)とその表現の特徴, 参加した作家の組合せとして最も適切なものを, 次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は15。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

＜芸術運動(様式)＞

- A ロマン主義
- B フォーヴィスム
- C 印象主義

＜表現の特徴＞

- a 純粋な色や素早い筆触等の描法で色彩の視覚的效果を表現しようとした。
- b 人間の個性や感情の表出を, 強い色彩や激しい動勢で表現しようとした。
- c 自然の姿や形を再現せず, 純粋に色彩や形体など造形要素だけで構成しようとした。

＜参加した作家＞

- ア アルフレッド・シスレーやカミーユ・ピサロ
- イ アンリ・マティスやモーリス・ヴラマンク
- ウ ウィリアム・ターナーやウジェーヌ・ドラクロワ

- ① A－b－ウ ② B－c－イ ③ B－a－ア ④ C－b－イ
- ⑤ C－a－ア

(6) 粘土でつくった彫刻作品の石膏取りの指導について説明した文として誤っているものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は16。

- ① 粘土の作品に切り金を差し込むときには、抜け勾配に気をつける。
- ② 石膏を溶くときには、ボウルに石膏粉を入れてから、ほぼ同量の水を流し込む。
- ③ 粘土の作品に石膏液を振りかけるときには、手早くまんべんなく振りかける。
- ④ 粘土をかき出して空洞になった型を雌型といい、雌型に石膏を流し込んでつくった型を雄型という。
- ⑤ 型に石膏を流し込むときの離型剤には、カリ石鹼を溶いた水などが使われる。

- (7) 下の仏像の説明として最も適切なものを，次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は17。

著作権保護の
観点により、
掲載いたしません。

- ① 法隆寺夢殿，伝百済観音像，飛鳥時代
- ② 法隆寺金堂，伝救世観音像，飛鳥時代
- ③ 法隆寺大宝蔵殿，伝百済観音像，奈良時代
- ④ 法隆寺夢殿，伝救世観音像，飛鳥時代
- ⑤ 法隆寺金堂，伝釈迦三尊像，白鳳時代

- (8) 下の文章は、下の彫刻作品の作者とその時代の美術について説明したものである。
文中の空欄（ ア ）～（ エ ）に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は18。

この彫刻作品の作者は、1876年に日本で最初の官立の美術学校として設立された（ ア ）で教鞭をとったラダールである。絵画は（ イ ）、予科はカベレッティといった外国人講師が指導に当たった。（ ア ）は1882年12月に閉鎖（翌年1月廃止）され、1887年には（ ウ ）が設立されたが、当初、西洋美術が扱われていなかった。（ ア ）の出身者たちは（ エ ）を立ち上げて西洋画を続けた。

<作品>

著作権保護の観点
により、掲載いた
しません。

- ① ア 工部美術学校 イ フォンタネージ ウ 東京美術学校
エ 明治美術会
- ② ア 工部美術学校 イ フェノロサ ウ 東京美術学校
エ 明治美術会
- ③ ア 東京美術学校 イ フェノロサ ウ 工部美術学校
エ 白馬会
- ④ ア 東京美術学校 イ フォンタネージ ウ 工部美術学校
エ 白馬会
- ⑤ ア 東京美術学校 イ フォンタネージ ウ 工部美術学校
エ 明治美術会

- (9) 下の日本各地の伝統工芸品A～Cと地域の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は19。

A	B	C
著作権保護の観点により、掲載いたしません。		

- ① A 宮島細工（広島県） B 津軽塗（青森県） C 備前焼（岡山県）
- ② A 宮島細工（広島県） B 津軽塗（青森県） C 美濃焼（岐阜県）
- ③ A 鎌倉彫（神奈川県） B 会津塗（福島県） C 備前焼（岡山県）
- ④ A 鎌倉彫（神奈川県） B 会津塗（福島県） C 美濃焼（岐阜県）
- ⑤ A 鎌倉彫（神奈川県） B 津軽塗（青森県） C 美濃焼（岐阜県）

(10) 一般的な焼き物の指導について説明した文として誤っているものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は20。

- ① 焼成時の割れを防ぐために、土練りをして粘土の中の空気を抜く。
- ② ひもづくり、板づくり、手びねりなどの方法で成形を行う。
- ③ 成形した作品を十分に乾燥させ、施釉をしてから素焼きを行う。
- ④ 素焼きは700℃～900℃、本焼きは1200℃～1300℃で焼成する。
- ⑤ 粘土どうしを接合する場合は、作品と同じ粘土を水で溶いたどべを接着剤のように使う。

- (1 1) 板材は，木取りによって木目が変わり用途も変わる。板目板と柃目板の木目，木取り，特徴の組合せとして最も適切なものを，次の①～⑤の中から一つ選べ。
解答番号は 2 1。

＜木目＞		＜木取り＞
A	B	
著作権保護の観点により、掲載いたしません。		

<特徴>

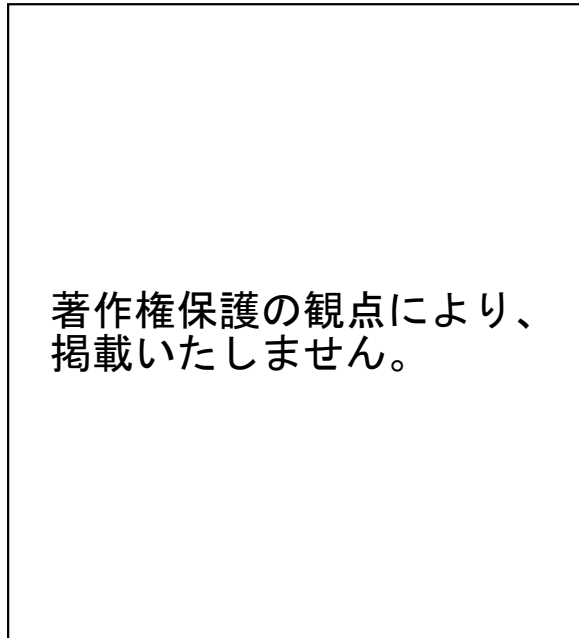
- ア 乾燥による収縮や反りが少ない
イ 乾燥による収縮や反りが出やすい

- ① 板目板 A－b－イ 柃目板 B－a－ア
② 板目板 A－a－イ 柃目板 B－b－ア
③ 板目板 A－b－ア 柃目板 B－a－イ
④ 板目板 B－a－イ 柃目板 A－b－ア
⑤ 板目板 B－b－ア 柃目板 A－a－イ

(12) 金属工芸における「焼きなまし」の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は22。

- ① 鋳金において流し込んだ金属が硬化するように冷ますこと。
- ② 鋳金において金属を流し込む鋳型を熱すること。
- ③ 彫金、鍛金において金属に熱を加えて表面の色を変化させること。
- ④ 鍛金において軟化した金属に熱を与えて、より硬くすること。
- ⑤ 鍛金において硬化した金属を熱して、柔らかくすること。

- (13) 下の図は、色立体における色の三属性の関係を示した構造図である。図中のA～Cの属性の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑥の中から一つ選べ。解答番号は23。



- ① A 彩度 B 色相 C 明度
- ② A 彩度 B 明度 C 色相
- ③ A 色相 B 彩度 C 明度
- ④ A 色相 B 明度 C 彩度
- ⑤ A 明度 B 彩度 C 色相
- ⑥ A 明度 B 色相 C 彩度

- (14) 下の文章は、代表的な欧文書体について説明したものである。文中の空欄 (A) ～ (D) に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は24。

よく使われる欧文書体には、セリフをもった (A) 体、セリフのない (B) 体がある。
複数の文字はいくつかのラインを基準にそろえられる。例えば大文字の高さは (C) で、下の並びは (D) でそろえられる。

- ① A ローマン B サンセリフ C キャップライン
D ベースライン
- ② A ローマン B サンセリフ C デセNDERライン
D ベースライン
- ③ A サンセリフ B ローマン C キャップライン
D ベースライン
- ④ A サンセリフ B ローマン C デセNDERライン
D エックスライン
- ⑤ A サンセリフ B ローマン C キャップライン
D エックスライン

- (15) 下の文章は、19世紀末から20世紀初頭のデザイン・工芸について説明したものである。文中の空欄（ア）～（エ）に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は25。

19世紀末から20世紀初頭にかけて、ヨーロッパを中心に植物や動物をモチーフとした有機的な（ア）とよばれる国際的な芸術運動が起こった。造形の特徴は（イ）を使った表現であり、建築、家具、工芸、ポスター、装身具などがつくられた。

1907年、ヘルマン・ムテジウスらは（ウ）を設立し、芸術家と企業家の協力による良品質の生産を推進した。1919年には、（ウ）のメンバーだったワルター・グロピウスが（エ）を設立し、芸術と技術の統合の理念のもとに造形教育を展開した。

- ① ア アール・デコ イ 曲線 ウ バウハウス
エ ドイツ工作連盟
- ② ア アール・デコ イ 曲線 ウ ドイツ工作連盟
エ バウハウス
- ③ ア アール・ヌーヴォー イ 直線 ウ バウハウス
エ ドイツ工作連盟
- ④ ア アール・ヌーヴォー イ 直線 ウ ドイツ工作連盟
エ バウハウス
- ⑤ ア アール・ヌーヴォー イ 曲線 ウ ドイツ工作連盟
エ バウハウス

(16) カメラの機能や撮影の指導について説明した文として誤っているものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号26。

- ① アナログカメラは、光に反応する感光性の素材でできたフィルムを用い、現像処理をして画像を得る。
- ② デジタルカメラは、光に反応する半導体のセンサーを介して画像をデジタルデータとして記録する。
- ③ 一眼レフカメラは、レンズを交換して撮影することができる特徴をもっている。
- ④ F値とは、シャッタースピードを表すもので、その値が大きいほどスピードが速い。
- ⑤ デジタルカメラのフィルムやセンサーに当てる光の量によって、写真の明暗が変わる。適正露出よりも暗く写ることを露出アンダー、明るく写ることを露出オーバーという。

- (17) 映像メディア表現について、映像機器を使わずにアニメーションの原理を体験できる装置と、その特徴について説明した文の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は27。

<装置>

- a パラパラ漫画
- b ソーマトロープ
- c フェナキスティスコープ
- d ゾートロープ

<説明>

- ア 連続した絵を円盤に描き、それを鏡に映してスリットからのぞいて回すと絵が動いて見える。
- イ 紙の表と裏に違う絵を描き、両側のねじったひもを引っ張って紙を高速で回転させると、二つの絵が一つに重なって見える。
- ウ 円筒状の装置の中に連続した動きの絵を入れて、回転させながらスリットを通して中をのぞくと、絵が動いて見える。
- エ 紙の一枚一枚に、動きを少しずつずらして絵を描き、紙を重ねてめくると絵が動いて見える。

- ① a－エ b－ア c－イ d－ウ
- ② a－エ b－ア c－ウ d－イ
- ③ a－エ b－イ c－ア d－ウ
- ④ a－イ b－ア c－エ d－ウ
- ⑤ a－イ b－ウ c－エ d－ア

- (18) 下の文章は、「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）第2章 各学科に共通する各教科 第7節 芸術 第2款 各科目 第4 美術Ⅰ 2 内容」の一部である。文中の空欄（ a ）～（ d ）に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は28。

A 表現

表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 絵画・彫刻

絵画・彫刻に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想

(7) （ a ）や自己,（ b ）などを見つめ感じ取ったことや考えたこと,（ c ）や想像などから（ d ）を生成すること。

- ① a 自然 b 文化 c 夢 d 表現形式
- ② a 自然 b 生活 c 夢 d 主題
- ③ a 自然 b 生活 c 心情 d 表現形式
- ④ a 環境 b 文化 c 心情 d 主題
- ⑤ a 環境 b 生活 c 心情 d 主題

- (19) 下の文章は、「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）第2章 各学科に共通する各教科 第7節 芸術 第2款 各科目 第4 美術Ⅰ 2 内容」の一部である。文中の空欄（ a ）～（ d ）に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを，次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は29。

B 鑑賞

鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 鑑賞

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 美術作品などの（ a ）を深める鑑賞

(7) 造形的なよさや（ b ）を感じ取り，作者の（ c ）や意図と（ d ）的な表現の工夫などについて考え，（ a ）を深めること。

- ① a 造形的な視点 b 美しさ c 主題 d 創造
- ② a 造形的な視点 b 機能 c 心情 d 造形
- ③ a 見方や感じ方 b 美しさ c 主題 d 創造
- ④ a 見方や感じ方 b 美しさ c 心情 d 創造
- ⑤ a 見方や感じ方 b 機能 c 主題 d 造形

- (20) 下の文章は、「高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）第2章 各学科に共通する各教科 第7節 芸術 第2款 各科目 第4 美術Ⅰ 2 内容」に示されているものの一部である。文中の空欄（ a ）～（ d ）に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は30。

〔共通事項〕

表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 造形の（ a ）の働きを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体の（ b ）や（ c ）、（ d ）などで捉えることを理解すること。

- ① a 特質 b イメージ c 作風 d 様式
- ② a 特質 b 主題 c 色彩 d 形体
- ③ a 要素 b イメージ c 色彩 d 形体
- ④ a 特質 b 主題 c 作風 d 様式
- ⑤ a 要素 b イメージ c 作風 d 様式